

土木工学・建築学委員会
デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会（第26期・第6回）

議 事 要 旨

1. 日 時 令和7年3月31日（月）16:00～18:00
2. 会 場 オンライン会議
3. 出席者 佐々木 葉・伊藤 香織・小野田 泰明・小野 悠・片桐 由希子・川崎 昭如
・近藤 存志・斎尾 直子・坂井 文・田井 明・高橋 良和・中嶋 節子
・松田 曜子・村上 暁信・山本 佳世子 ※下線は欠席

4. 議題および決定事項

（1）前回議事要旨の確認

12/23 に行った第5回分科会の議事要旨を確認した。

（2）石塚理華氏からの話題提供

一般社団法人公共とデザイン共同代表の石塚氏より、『わたし』から社会を変えるソーシャルイノベーション』と題した話題提供があった。選挙や制度にとどまらない、個人のもやもやや問いを起点としたライフプロジェクトから創造的な社会環境を醸成する「クリエイティブデモクラシー」を通じたソーシャルイノベーションについて紹介された。行政や企業が「自立分散型の活動を可能にする役割」へと変化し、市民も「消費者」から「(地域) 社会の担い手」へと役割を再定義する必要性を提示した。また、地域の一人ひとりがそれぞれ固有の「知」を持つことから、分断された社会課題を再公共化し、「わたし」に接続し直す重要性が指摘された。これらを踏まえ、委員との活発な議論が行われた。

- ・ 松田委員：アナーキズムとの関連はあるか？アドボカシー的な要素も必要では？
- ・ 石塚氏：確かに通じる点がある。法制度は事例から構築される側面があるため、事例づくりに注力している。
- ・ 松田委員：公共とデザインのような団体が10や100と増えれば社会はより良くなる。しかし、それが実現しないのは、持続可能な経済モデルがないから。学術会議として取り組めることがあるのではないか。
- ・ 伊藤委員：「シビックプライド」と通じる要素がある。市民が「消費者」で終わらず、手触り感を持てることは重要。ただし、実際には創造性に関心がなく消費者で十分という層が多いのに対して、市民像を理想化しすぎてしまう面がある。
- ・ 石塚氏：参加者が偏る問題は確かにある。自分の関心とは異なるテーマを設定したり、時間帯をずらすなど、参加の「グラデーション」を設けることで対応できる部分もあると感じている。
- ・ 川崎委員：ワークショップは行政から依頼されているのか、それとも自主的に提案しているのか？
- ・ 石塚氏：両方ある。プロポーザル案件もあれば、行政案件ではなく、助成金事業として自主的に行っていたものもある。行政の案件が十分あるとは言えない。現在は行政案件と企業案件が半々。

行政と企業、それぞれが担える役割がある。

- ・ 斎尾委員：ワークショップ等の活動で、地域課題の問題点を詳細に深掘りしていくと深刻になり過ぎることがある。そのような場合はどうしているか？
- ・ 石塚氏：地域自治体の案件はまだ始めたばかりでこれからだ。
- ・ 斎尾委員：「産まみむめも」はとても興味深く、どのように企画し進めたのか？
- ・ 石塚氏：専門家へのヒアリングからリサーチクエスションを設定し、異なる視点の関係者による対話を通じて方向性を見出すようにした。
- ・ 坂井委員：イギリスで用いられる「イネーブラー」という概念をどう捉えているか？石塚氏の組織がその役割を果たしているのでは？
- ・ 石塚氏：わたしたち自身にもイネーブラーの側面がある。また、コミュニティデザインだけではなく行政等とのステークホルダーの協働を重視して行なっている。
- ・ 坂井委員：石塚氏のような人材をどう確保すべきか？
- ・ 石塚氏：学生のころから無形のデザインに関心があった。グラスゴー美術大学プロダクトデザイン学科に留学した際、従来のデザインスキルよりもブランディングやサービス設計等の無形のデザインに重きを置き、自治体に対してデザイン提案することを目の当たりにしたことも大きかった。所属する会社では実現できないことを起業によって実現し、現在に至っている。
- ・ 田井委員：「デザイン」という言葉を使うことで得られたことや、難しかったことは？
- ・ 石塚氏：意匠系の建築家と話す場面では、こちらの「デザイン」が十分に理解されないことがある。
- ・ 田井委員：今後求められるのはどのような「デザイナー」か？
- ・ 石塚氏：専門家デザイナーとしては、参加型デザインやシステム思考を持つ人材が求められる。
- ・ 田井委員：建築や土木を学ぶ学生に、そうした素養を加える方向性はあるか？
- ・ 石塚氏：十分にありうる。ただし、現在はそれを学べる場がほとんど存在しない。
- ・ 佐々木委員：「もやもや」がキーワードだが、「もやもや」したくない人が増えている中で、それを言語化し、抱えながら生きていけることが大事。
- ・ 石塚氏：「もやもや」して実践を試してみることが大切。一歩踏み出せるよう後押しすることが、自分たちの役割だと考えている。

(3) シンポジウムについて

6/6 開催のシンポジウムについて意見交換を行った。

以上